

宮農支援課、岩槻地区担当TACの小松です。

岩槻区内では穀物や葉菜、果菜をはじめ、根菜、果樹など、とても多くの農産物が生産されています。その中でも今回は、伝統野菜である「花芯山東菜」についてご報告いたします。

主に県南で特産的に栽培されている半結球の大型野菜で、収穫期になると芯葉部分が花を咲かせたように黄色く色づくのが特徴です。12月初旬から年末にかけて出荷され、結球する白菜などに比べて肉質がやわらかいため、漬物にとっても適しています。

しかし、生産者にとっては、「やわらかいが故に栽培が難しい」という面があります。近年の暖冬の影響もあり、病虫害の発生しやすい時期が変わっていて、防除するタイミングにも気を付けなければなりません。また、他の農作物に比べて、花芯山東菜は使用できる農薬の数が少なく、そのことも生産者の頭を悩ませる原因の一つとなっています。

そこで、栽培の目安として使っていただけるように、今年は防除暦を作成することとしました。生産者の方々に、これまで実際に使用した農薬の効き具合や散布時期、問題点などについてご意見をいただきながら、現在作成しています。

